令和7年度　学校評価

埼玉大学教育学部附属特別支援学校

学校教育目標	自己実現を目指して物事に積極的に取り組み、生き生きと社会生活のできる児童生徒を育成する
目指す子ども像	「主体的に　対話的に　深く学ぶ子」
観点	①　教育支援の充実　②教育保障のための環境整備　③指導実践力の向上　④特別支援教育の推進　⑤教員の働き方改革　⑥大学附属学校園の使命

学校自己評価						保護者アンケート			学校関係者評価	次年度への改善策
観点	評価項目	目標	具体的内容	目標達成度※	主な意見等	評価項目	目標達成度※	主な意見	評価懇話会実施2月12日	
①	自立と社会参加に向けた学習指導の充実	一人一人の児童生徒が主体的、対話的に学び、学びを生活に活かす力を身につける学習指導を展開する	○児童生徒一人一人が「確かな学び」を育むことのできる学習活動、指導支援を提供する。 ○「めざす子ども像」の実現に向けて、各学部の教育課程を整理するとともに、個別の指導計画、授業計画に反映する	A 95%	めざす子ども像を基に教育課程を整理した。児童生徒の自己調整や選択を促す実践が見られた。	学校は、わが子の自立と社会参加に向けた学習指導を行なっているか	A	一人一人の言動をよく見て支援されている。これからも自主性が発揮される活動を願う。	障害の有無に関わらず「『嫌』は悪い、『できない』のであきらめる」から「『好』を伸ばす、『できる』を活かす」へ考え方の転換が必要。	・「好き」や「得意」、「嫌」「苦手」を自ら表出したり、調整したりする力を伸ばす支援指導を工夫する。 ・児童生徒一人一人の視点に立ち、各教員が指導支援等に関する考え方の転換を図る研究と修養に努める。 ・柔軟で可変的な個別の指導計画の実施を検討する。
②	安全で安心、効果的な教育環境づくり	安全に安心してもてる力を発揮できるよう、人権と多様性を尊重した教育環境を整える	○罰や強要につながらない指導支援を行う。 ○事故、怪我、感染症等を予防する環境の構造化を図る。 ○児童生徒が自主的な行動がとれるようになる安全教育、人権教育を計画する。	A 95%	研究活動を通して指導支援を検討することができた。怪我等を防ぐ体制、環境整備が必要である。	学校は子供たちが安全で安心して学べる教育環境づくりに取り組んでいるか	A	我が子は学校生活に楽しみや喜びを感じて過ごせている。毎日安心して学校に送り出せる。	ポジティブな経験を重視し、本人と共有しながら「やめてほしいこと」「嫌」「困っている」を伝えられる力の育成につなげることが重要である。	
③	各教員の専門的指導力の向上	各教員が学習指導や特別支援教育に関する専門性を高める。	○校外の研修等への参加や外部指導者を招聘し各教員の研究を推進する。 ○教員同士が専門的技量を高めあう学校研究を推進する	A 92%	自主的に研修を受けた。求めていけば学ぶ機会は色々なところにあると実感した。	本校の教員は専門的指導力の向上に向けて努力しているか	A	担任だけでなく学部、学校の先生で一緒に考えている。研究を日常に結びつけ学習している。	「好きを引き継ぐ」視点を大切にし、将来像や目標は固定的なものではなく、見直し可能なものという前提を大切にする。	
④	保護者・地域と連携した特別支援教育の推進	児童生徒の「確かな学び」を育み、地域社会の障害者や特別支援教育への理解を推進する。	○地域の環境（様々な施設等と人々）を活用した実際的体験的な学習活動を充実する。 ○保護者の学習プログラムを継続実施する。	A 96%	地域施設等を利用した学習は充実させることができた。周辺地域の方々の意識は高い。	学校は地域や家庭と連携して特別支援教育を推進しているか	A	地域との関わりの中で、子供をみていただいている。家庭では経験しにくい学びを行っている。	地域での充実した活動が行われており、住民も協力的である。実際に関わることが互いの学びになるため、継続してほしい。	地域・家庭と連携し、様々な人や施設等と関わる教育課程のさらなる充実を図る。
⑤	働きやすさの実現	働きやすい職場づくりをすすめる。	○会議、打合せの目的を効率的に達成する方法を工夫する。 ○情報共有等のコミュニケーションの方法を工夫する。 ○係や担当者の業務負担を軽減するよう文書フォルダ等を有効活用する。	B 89%	児童生徒や指導支援についての情報共有や会議について、課外の取組について工夫が必要である。	—			文書配布で周知徹底し会議・研修を最小限にしたり、教職員の適正に合わせて業務分担したりするなど、負担感軽減ともに円滑な遂行を促すマネジメントができると良い。	・データとメール、Teams 等を有効活用し、確実で円滑な情報共有と会議や話し合いの工夫をする。
⑥	教育プログラムの開発と教育・研究活動の発信	・「共生・ダイバーシティ社会」の担い手づくり教育プログラムをまとめ、中間報告をする。 ・研究協議会、公開授業研究会の参加者満足度80%を達成する。	○ 6 つの柱「①「性」の多様性、②障害者・高齢者、③異なる文化や言語、④生命の多様性、⑤多様な職業、⑥貧困・経済的格差」を視野に入れた教育プログラムの実践報告をまとめる。 ○ 本校の教育活動、研究活動を積極的に発信する研究協議会（公開授業研究会）を実施し、アンケートをとる	A 92%	・実践報告をまとめ教育実践フォーラムで中間報告を行った。 ・公開授業研究会の参加者の満足度96%であった。	学校は積極的に教育・研究活動を発信しているか	A	学校 HP でどのような取り組みをしているのかがよくわかる。研究協議会でも、来校者に分かりやすく工夫されている。	一人一人が違うことを知り、得意を活かした役割分担のある授業や様々な人とかかわる機会など、自分と他者を大切にすることを基盤とする教育を継続すると良い。さらなる発信に励んでほしい。	・児童生徒が多様性に触れ、自分事として学べる実践の工夫と充実を図る。 ・対象に応じた発信の媒体や方法の工夫をする。

A…達成度９割以上　B…達成度７割以上　C…達成度５割以上　D…達成度３割以上　E…達成度３割未満　※アンケートA評価とB評価の合計